
狼少女と王子様

甘草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狼少女と王子様

【Nコード】

N0956N

【作者名】

甘草

【あらすじ】

アレグリート王国の王子ジュンはある日この暮らしが嫌になり城をとびだす。白亜の森とよばれる森でジュンが出会ったのは狼に育てられた少女ナギ。この出会いが二人の運命を大きく狂わせることになる。

プロローグ(前書き)

主人公の台詞は『』です。

プロローグ

「とうとう帰ってきたな。」

銀色の狼は少女に言った。

『ああ。』

ひゅーつと風が吹く。

彼女の金に近い茶色の髪がなびく。

「聞いたか？白亜の森が破壊されているらしいぜ？」

それを聞いて少女の眉間にしわがよる。

「どうするよ。ナギ。」

ナギと呼ばれたその少女は大きな声で言った。

『人間どもを滅ぼす。』

銀色の狼はフツと笑う。

「お前は言い出したら聞かないもんな。」

そしてその二人は100mはありそうな高い崖から飛び下りた。

ブログ（後書き）

学園の創造主！を終わらせてないのに新しいのをつくってしまった
ー！

不定期更新になると思いますがぜひ、よんでください！

1話

『まったくここはどこだ!!』

先に叫んだのはナギだった。

「落ち着け。第一お前が道を知っているというからついてきたのに……。」

そういつてため息をついているのは狼のラピスラズリ。

この二人は白亜の森に向かっているのだが、長年森から離れていたため道が分からなくなっていた。

『っていうかラピスラズリは狼なんだから仲間の居場所くらい分かっててもいいんじゃないか!?!』

「馬鹿。俺はもうとっくに分かっているんだよ。」

は?とナギは驚いた顔をした。

『じゃあ、なんで最初に教えなかったんだよ。』

「そりゃあ、お前の反応がおもしろいからさ。」

ラピスラズリはそうやってニヤツと笑うとこっちだ、と言って歩きだした。

『このドS!!』

ナギがそう叫ぶがラピスラズリはしっぽを振っただけで何も言わなかった。

「王子。勉強の時間です。」

重そうな扉を開けて入ってきたのは執事のリール「グラデル」。

「!?!」

しかし部屋の中はもぬけの殻だった。

「これは……!」

リールは一枚の紙が落ちているのに気がついた。

「お父様、お母様、使用人のみんなへ
僕はもうこの国の王子になることをやめました。
勉強なんかつまらないし難しすぎるし、毎朝10km走れっという
のも意味分らないので家出します。新しい王子はどっかそこらへ
んから拾ってきてください。 ジュンより」
「ったく…あの王子様は本当にやんちゃですねえ…。」
リールはハアツとため息をつきこの緊急事態を王様たちに知らせる
ため部屋を出て行った。

「ツクシュ！」

静かな森の中で一人の少年がくしゃみをする。

「うあ…。だれかうわさしてるのかな…?」

この少年こそアレグリート王国の王子ジュンだった。
城から逃げ出したはいいがろくに城の外にでたことないジュンは迷
子になっていた。

しかも、狼のすみかだといわれている白亜の森で迷子になると
はジュンは知らなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0956n/>

狼少女と王子様

2010年10月9日01時34分発行